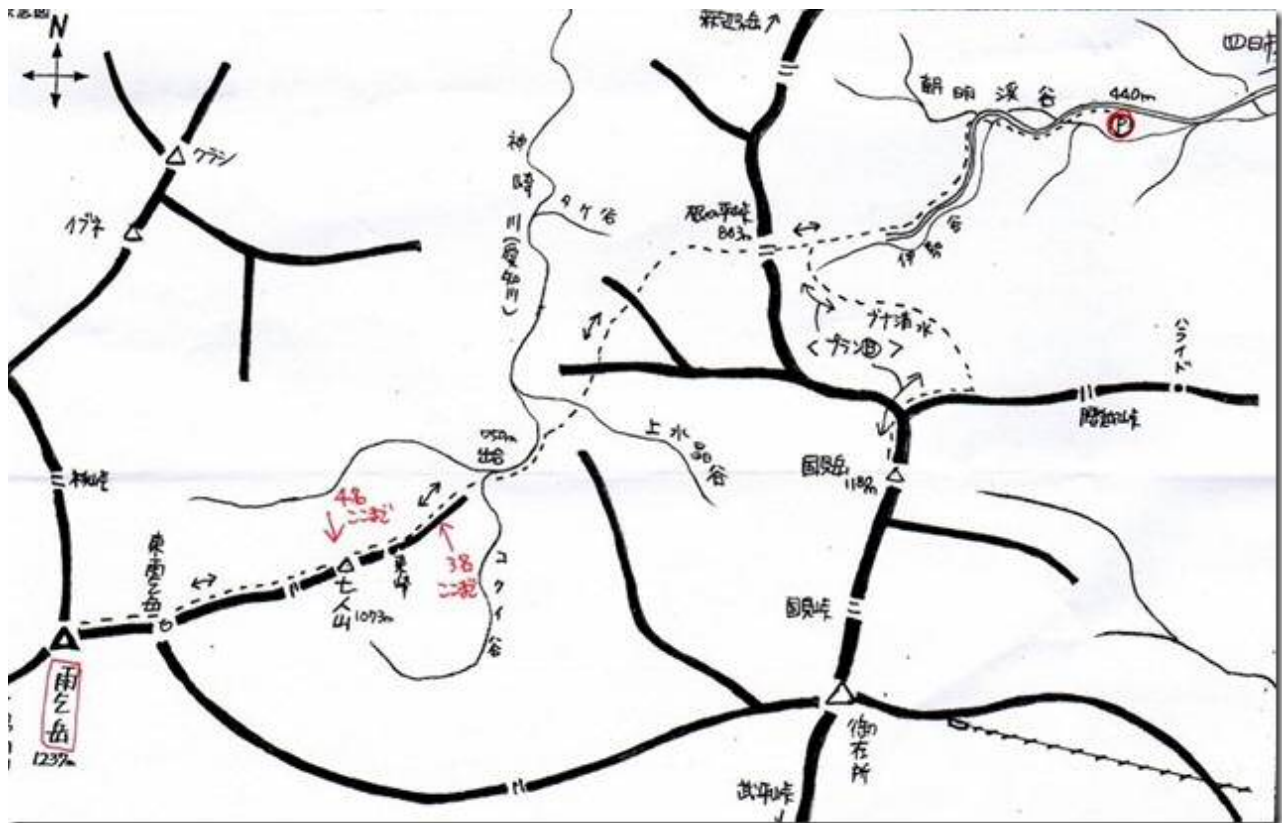


鈴鹿山系・朝明溪谷から雨乞岳(1237m)

2015年2月1日(日) 曇り時々雪

メンバー：磯部S(リーダー)・小池M・手塚・宮本・藤田M・古橋・磯部N(記)



ルート概念図

今年の鈴鹿山系は例年に比べて、積雪がかなり多く、面白い雪山歩きが楽しめそうなので、今までに歩いてないコースを歩こうと夏道でも長い朝明（あさけ）溪谷から雨乞岳へのコースを計画する。

沢沿いに道をたどっていくコースの為、幾度かの渡渉もあり、ルートの選択が重要で、読図力もいるし、ラッセルもあるので体力もいるという雪山歩きの要素が満載の山行となった。

前夜の内に翌朝の林道の凍結を心配して、朝明の駐車場まで入ったが、既に雪がざんざん降っている中のテントの設営になった。

朝にはほとんど止んだが、夜間の降雪で林道も雪に埋まった。ロングコースのため、ヘッドンつけて出発。

その後、伊勢谷を根の平峠まで詰める道の入り口がはっきりわからなくて15分ほどロスタイム。

トレースもまったくなくて、先頭のメンバーが交代で道を作り、根の平峠手前から雪が深いのでワカンをつけて歩いた。



本日最初の渡渉（といっても2 m弱で岩渡り）・看板をしっかり確認

峠からは、しばらく雪原に入り、ますます地図とにらめっこになる。
上水晶谷への分岐は注意、ここから吹雪いていたら撤退も考えるべき地点だ。
夏道ではあるため、テープ、雪下の踏み固まったところを意識してルートをとる。
小さな尾根や谷を横切っていくが、気をつけないと谷側に下降してしまうかもしれない。
樹齢何百年もありそうなりっぱな大杉を越え、しばらく進むと、上水晶谷へ下降する。
飛び石のようにおっかなびっくりで上水晶谷を渡渉。神崎川（愛知（えち）川）本流沿いを歩き、斜面のトラバースもあって、気が抜けない。
要所要所には道標が立っているので、正しい方角が確認できた。



神崎川本流に沿ってトラバース



沢から一旦離れて急な上りで尾根にルートを取る

時には夏道のとおりには進めず、道の偵察に行って、進める道を探りながら進んだ。
そんな時、尾根に向かって偵察に行ったリーダーを待っていたら、20メートルほど離れた斜面を飛ぶように走る動物を発見！
なんだ、なんだの歓声が上がる。クネクネと体を波打つようにくねらせて、早い。
あつという間でうまくカメラに収めることはできなかったが恐らくテン、だったような！
雪山ならでの出会いだった。



しっぽははっきり！ 駆け抜けるテン

沢の雪景色にこころ癒されるうちに、コクイ谷の出会いに到着。
七人山への登りは、夏道通りに行くとコクイ谷は渡らないで、神崎川を渡り返し、出会いよりちょっと本流上流部から取り付くらしい。
しかし適当なところが見つからない。小池さんがコクイ谷をほんの少し登ったところで、対岸の7人山斜面に積雪期だからこそ登れそうなルートを発見。
コクイ谷を渡ってそこから取り付くことに決めた。



樹林帯・平地、こんなところで吹雪いたら・・・

いよいよ沢コースを離れて、急なのぼりが300メートルの高度差で続く尾根コースに突入。しかし帰りの時間も考えると、残りをハイペース1時間ほどでクリアして、何とか雨乞岳の手前の七人山までいけるかどうか、という状況だ。

ここで、そのまま下山チームと七人山チームに分かれ、無線で定時更新しながら別行動にした。



コクイ谷は水量多く岩の上の積雪を利用して渡る。でもワカン・・・。

疲労度の高い下山チームはゆっくりかつ休憩を多く取りながら、登頂チームに追いつかれるように歩いた。
ルートははっきりしているものと考えていたが、今日一日雪が降ったり止んだりで、7人の足跡も風の強い所では、既に雪に埋もれている箇所もあった。わずか2, 3時間前なのに・・・。
それでも、帰りは気持ちも軽く、根の平峠まで来ると、名残惜しく感じた。



根の平峠西の雪原で記念撮影

峠から少し急な下りもあったが、4時過ぎに無事に駐車場についた。長いコースだったが変化もあり、三重の知人が釈迦岳に次いで勧めてくれただけあり、面白くて歩き甲斐があるものだった。

駐車場に着くと、釈迦岳に行った久保田夫妻がいてびっくり。山で仲間に会うことは気持ちの良いものだ。

日帰り温泉は、朝明溪谷駐車場より少し下った林道途中にある、「三休の湯」600円。設備に不安があったが十分であり、ランプや風情のある造りは、菰野の集合施設内にある前衛的某温泉より、くつろぐことができました。

<タイム>

朝明溪谷 P (6:10) – 根の平峠 (8:45) – コクイ谷出合い (10:55) – 七人山取り付き (11:30) – 七人山 (12:20) – 根の平峠 (14:30) – 朝明溪谷 P (15:55)

以上